

# 平和な未来をつくるために、私たちがすべきこと

## 1 対象学年 中学3年生

### 2 ねらい

終戦から73年を迎え、戦争を経験した世代が減少し、当時の悲惨さを語り継ぐことが難しくなっている。本学級においても20%の生徒のみが現在、家族や親戚から戦争体験談を聞くことができる状況であることが分かった。(図1)生徒たちが大人になるころには、戦争経験者が確実にいなくなっているといっても過言ではない。そのような中、生徒は社会科の学習などで戦争について学習をしてはいるが、戦争は自分とはかけ離れた歴史上の出来事という認識の者も少なくない。そのため、私たち教師も生徒も戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に語り継いでいく必要があると考える。

本題材では、戦争をテーマにしたアニメや実際に戦争を経験した人々の体験談をもとに平和教育を進めていく。アニメや写真から当時の様子を知ることや、戦争経験者の生の声を知ること、より身近に戦争の恐ろしさを感じることができると考える。その際、戦争被害者の立場から平和を考えるだけでなく、戦争加害者の立場からの視点も取り入れることで、「戦争とは何であったのか」「平和な世の中をつかっていくためにどうすればよいのか」ということを、より深く考えていきたい。また、自分自身も後世に伝えていかなければいけないということを意識し、戦争に対する自分の考えをもつことで、自分たちがこれからの社会を担っていくという気持ちを養っていきたい。事前アンケートでは、平和な世の中にしていくために、自分自身で何ができるか考えたことがある生徒が51%いることが分かった。(図2)しかし、具体的な例を挙げられる生徒はほとんどいなかった。今回の実践を通して、平和について自ら考え、さらには行動しようとする意識を高めていくことで、平和の大切さを改めて深く考えていけるようにしたい。さらに、戦争を教材として扱うため、人の命の尊さについても考える機会としていきたい。

図1 事前アンケート結果①

家族や親戚に戦争を体験し、話を聞ける人がいる。

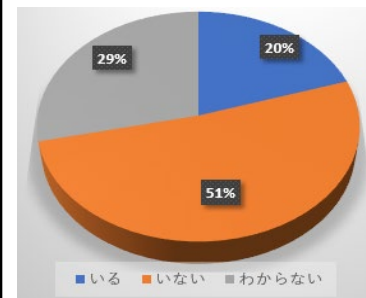
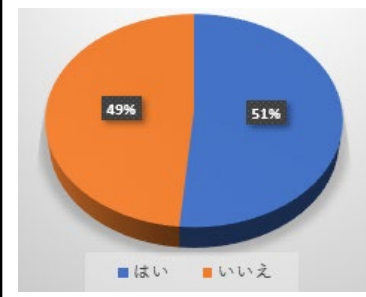


図2 事前アンケート結果②

平和な日本や平和な世界にしていくために、自分自身で何ができるか考えたことがある(考えたい)。



### 3 指導計画(3時間完了)

時	テーマ	学習内容
1	戦争について知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前アンケートの結果を知り、現在の自分たちの戦争や平和に対する意識を確認する。</li> <li>資料「火垂るの墓」を一部視聴し、空襲や原爆があった戦争当時の様子を知る。</li> </ul>
2(本時)	戦争について考えよう ～実体験から考える～	資料A「焼け跡に立つ虹(題材名:電柱から血が)」 資料B「若者から若者への手紙(題材名:結婚して子どもができたからだよ。自分がやったことを本当

		に悔いたのは)」 資料C「焼け跡に立つ虹 (題材名：くり返してはならない戦争)」 資料D「焼け跡に立つ虹 (題材名：佐々木君の父はいまはずこ)」 実際に戦争を体験した話を読み、筆者が伝えたかったことを考え、戦争、平和とは何かを考える。
3	考えたことを自分たちの未来につなげよう	戦争未経験者の自分たちが、平和な世の中を作っていくために、何ができるのかを考え、行動する意欲を高める。折り鶴を折り、一人一人の平和への思いを書き入れる。

#### 4 本時の学習

##### (1) ねらい

- 戦争被害者の立場から平和を考えるだけでなく、戦争加害者の立場からの視点も取り入れ、様々な視点の体験談を読むことで、戦争の恐ろしさや悲惨さを知る。
- 戦争が私たちにとってどういうものなのかを考え、再び戦争を繰り返さないという思いを養う。

##### (2) 準備

- 教師 ワークシート、資料4種類

##### (3) 学習過程

段階	学 習 活 動	学び合い・認め合いの手立て と 学びへの支援
つかむ5分	1 前時の内容を復習する。【全体】 ・ 事前アンケートの結果の確認をする。 ・ 戦争当時の様子について確認する。 2 本時の学習内容を知る。	・ 前時の授業で用いた写真や資料を提示し、前時の学習や自分が感じたことなどを思い返すことができるようにする。
	戦争の体験談から戦争・平和について考え、自分の意見をもとう。	
とくむ	3 戦争体験談を読み、戦争経験者の思いを知り、自分の考えをもつ。 【個→グループ】 (1) 4人グループを作り、A~Dの自分の役割を確認し、指定の場所に移動する。 (Aの生徒) (2) 資料「焼け跡に立つ虹(題材：電柱から血が)」を読み、日本で空襲を受けた際の思いを知る。 (3) 読んで分かったこと、そこから考えたことをワークシートに書く。	・ 戦争や人の命を題材にした体験談であることを伝え、真剣に資料に向き合い、自分の考えをもつことの大切さを確認する。 ・ 目的意識をもって、自分に与えられた資料を読むことができるようにするため、4つの資料を用意してあることを事前に伝え、後で班員に自分の読んだ体験談を伝える活動を確認する。 ・ 項目ごとに分かったことや自分の意見が書けるようなワークシートを用意し、どの生徒も個人で取り組めるようにする。 ・ 資料をきちんと読み、誤りがないように、正しい情報をまとめるように促す。

- ・ 学校で戦争のための授業が行われていた。
- ・ 毎日のように空襲の被害を受け、大勢の人が亡くなったり、家を焼かれたりした。
- ・ あちらこちらに血が飛び散っていた。
- ・ 戦争は、一瞬にして人の命や生活を奪ってしまう。

(B～Dの生徒も同様に行う。)

(4) 体験談を読んで、分かったことや感じたことを、同じ資料を読んだグループで確認する。

4 分かったこと、考えたことを正しく伝える。 【グループ】

(1) 生活班の4人グループに戻り、グループ隊形を作り、Aの生徒(被害者体験談)から、体験談を読んで分かったこと、自分が考えたことを同じグループの生徒に正しく伝える。

(2) 被害者、加害者の両側の体験談を知り、考えたことを話し合う。

- ・ 戦争の被害者も加害者も、戦争によって悲しい思いをしている。
- ・ 二度と戦争の被害を受けたくないし、戦争に参加してもいけない。

(3) それぞれの体験談を簡単に再確認し、自分が読んだ体験談について正しく相手に伝えられたかどうかを振り返る。

5 グループで考えを交流する。

【グループ】

(1) 被害者側、加害者側の体験談を踏まえて、戦争とは何だったのかを考え、意見を交流する。



【写真1 体験談を伝える生徒】

【知識・理解】

戦争の体験談をもとに、正しく情報をまとめ、自分の考えをもつことができたか。

(ワークシート)

・ 発表者は聞く人の方を向いて、聞く人は発表者の方を向くよう指示する。

・ 根拠や理由を付けて、自分の意見を発表するように促す。

・ 話を聞いている生徒に対して、必要に応じてメモを取りながら聞くように促す。

・ 前時までに行った、ピアサポート活動を思い返し、話の伝え方、聞き方を意識できるように助言する。

・ 自分自身の語り部活動を振り返り、将来自分たちが戦争の体験を語り継いでいかなければならないことを意識できるようにする。

・ 事前アンケートを再度確認し、今後戦争体験のない自分たちが戦争の体験を語り継いでいかなければならないことを自覚するよう促す。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦争は、恐ろしく悲惨なもの。なぜなら、平気で人の命が奪われてしまうから。</li> <li>・ 被害者も加害者も心に傷を負い、よいことなんて一つもない。</li> <li>・ 自分たちは戦争の被害にあいたくない。そして、戦争をすることもいけないと思う。</li> </ul> <p>(2) グループで一枚のホワイトボードに意見をまとめる。</p> <p>6 全体で意見を交流する。【全体】</p> <p>(1) 各グループでまとめた意見を発表する。</p> <p>(2) 出てきた意見を全体で確認し、付け加えたいことや新たに考えたことがあれば発表する。</p> <p>(3) 意見を集約し、学級としての方向性をまとめる。</p>	<p>【 関心・意欲・態度 】</p> <p>積極的に話し合いに参加し、戦争や平和について考えることができたか。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の班の意見と比べながら、発表を聞くように指示する。</li> <li>・ 戦争はよいという流れになっていかないように、教師がある程度、舵を取りながら意見を集約していく。</li> </ul> <div data-bbox="821 929 1364 1276" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【写真2 班の意見を書いたホワイトボード】</p> </div>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>7 本時の振り返りをする。【個人】</p> <p>(1) 本時の授業を振り返り、分かったこと、感じたことをワークシートにまとめる。</p> <p>(2) 感想を発表する。</p> <p>8 次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時は、戦争未経験者の自分たちが、平和な世の中をつくっていくために、何ができるのかを考えることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間を見て、数名を指名し、他者の考えを聞く機会を作る。</li> </ul> <p>【 思考・判断・実践 】</p> <p>戦争の悲惨さや、恐ろしさを知り、これから自分たちはどうすべきかを考え、まとめることができたか。(ワークシート)</p>

## 5 実践のまとめ

### 【第1時】戦争について知ろう

授業の導入で、事前アンケートの結果を生徒と確認した。自分の平和に対する意識だけでなく、クラスとしての結果を知り、平和に対する自分たちの知識の乏しさ、意識の低さに驚いている生徒もたくさんいた。生徒からは、「戦争について知らない人が多くてびっくりした。」「もっと知っていけない

といけない。」という声が多く上がった。また、「火垂るの墓」の視聴では、どの生徒も真剣に映像に見入っていた。当時の人々や生活、空襲の様子などアニメではあるものの当時の悲惨さを感じ取った生徒が多く見られた。振り返りからは、「今回の3回の授業で少しでも多く戦争について学ぼうと思いました。」「戦争体験者の話を聞いてみたい。」という前向きな意見があり、次時に向けて意欲を高められた生徒が多くいた。

戦争について私はあまり知らなかったのど	やっぱり実際に体験したわけではないけど
画像 戦争を1つだけでも知ってみたいと思いました。	体験したことのある人の話をきいてみたいこと
今日の映画が空襲のおそろしさをわかりました。	思いました。

### 【資料1 第1時の生徒の振り返り】

#### 【第2時】戦争について考えよう～実体験から考える～

戦争経験者が語る体験談を教材とし、戦争を経験した当時の人々の様子や気持ちから戦争について考えていくことができた。まず、一つ目のグループ活動においては、加害者側と被害者側のそれぞれ違った体験談を読み、それを相手に伝える活動を行った。お互いに知らない情報を共有し合うことで、きちんと相手と話し、正しく伝えなければいけない必然性、そして相手の話をしっかりと聞かなければいけない必然性が生まれた。加えて、戦争の恐ろしさを後世へ語り継いでいく疑似体験ができればと考えた。活動を通して、多くの生徒が「自分しか伝えられる人がいない」という意識をもって真剣に資料を読むことができたと感じる。その後の交流場面においても、一生懸命にグループの仲間に対して、自分の読んだ戦争体験談を伝えようとする姿、それを聞き取ろうとする姿が見られた。生徒からは、「戦争は誰もが心に傷を負う、すごく悲惨なものだ。」「戦争は、殺す側も殺される側も傷つくだけで、誰も得をしないものだ。」など、加害者側の体験も踏まえた考えも挙がり、ねらいに近づくことができた。また、戦争体験談を正しく理解し、伝える難しさを感じた生徒も多くいた。

人の命をうばうほうばうはわたるもその周りの人もとてまじやな気 持ちはたして悲しい思ひをばかにはならぬ戦争はダメ だということを知り、戦争は(？)はいいと思た。	4つの体験談を読んで、戦争は非人7、全7の人々を苦し せる、もう一度と起こしてはいけないものだと思ため7 感じました。 そのため、私は、戦争や平和についてもっと深く考えるために他の体験談 も読んでおようと思いました。
---	---

### 【資料2 第2時の生徒の振り返り】

#### 【第3時】考えたことを自分たちの未来につなげよう

第1時、第2時の学習を踏まえて、「平和な世の中にしていくために、自分たちができることを考えよう」という目標で授業を行った。「平和な世の中とは、どんな世の中だと思いますか？」という発問から、何をもって平和なのかということ考えた後に、平和な世の中にしていくために、自分たちにできることを、自分の周りで、日本で、世界で、と自分に近いところから書き出していった。漠然としていて今まであまり平和のために自分ができることを考えることがなかった生徒も、自分に近いところから考えていくことで、「自分が言われて嫌なことを言わない」「困っている人がいたら助ける」など、小さなことから自分たちにもできることがたくさんあることに気づくことができた。また、一人一人の意見を黒板に書き出すことで、できることがたくさんあることを見える化でき、できることから行動に移していこうという意欲を



【写真3 折り鶴の協力を呼びかける生徒】



高めることができた。その中で、「平和への思いを込めて、折り鶴を折る」という意見が挙がり、ぜひ学級でもやっていこうということになった。学級だけでなく、自分の家族や学年への協力の呼びかけをし、たくさんの協力を得ることができた。完成した千羽鶴は、終業式後の学年集会で学年の生徒に披露し、平和への意識をこれからも持ち続けていくことを呼びかけた。平和への取組を考え、実践することができたこと、それを学級だけでなく学年や家族まで広めることができたことはとても良かった。



【写真4 千羽鶴完成を伝える生徒】

感想  
僕は今まで世界の平和のための行動なんて考えたこともなかったし、できることはないと思っていただけ、よくよく考えてみると、はこうなることに気づいたのでも、意識していきたいです。

感想  
3時間という短い時間でしたが、この授業を通して、戦争に対する考え方が変わりました。1日1つの日本の、世界のためになることができなければいけないと思いました。これからもこの授業が続いてほしいです。

【資料3 第3時の生徒の振り返り】

## 6 成果と課題

今回の実践を終え、事後アンケートを行った結果、「戦争や平和について興味がある」という質問に対して学級の全ての生徒が「とてもある」「ある」と答えている。(図3)さらに、「平和な世の中にしていくために、自分自身で何ができるか考えたい」という質問に対しては、97%の生徒が「はい」という前向きな回答をしている。(図4)生徒の振り返りからも、「戦争の恐ろしさを知り、二度と同じことを繰り返したくはない。」「自分にできることを、小さなことからでもやっていきたい。」という声上がり、今回の実践を通して、生徒の平和への意識がかなり高まったことが分かった。

「平和教育」としてきちんと時間を設定して、取り組んだことによって、一部ではあるものの、戦争について知り、自分たちにできることを考え、実践をるところまで取り組むことができたことがよかった。

第2時において、「焼け跡に立つ虹」の中の体験談をいくつか活用した。実体験をもとにした話であるため、生徒はとても一生懸命に資料を読むと共に、戦争の悲惨さを知ることができるともよい教材であった。一方で、長い資料のため、時間内に資料を読み取って、それを相手に伝える活動をしようとした際に、時間が十分になかった。資料の活用方法が今後の課題であると感じた。また、平和教育の実践を行うことで、生徒の意識は高まるものの、学級単位ではなく、学年、学校単位でどのように取り組んでいくべきなのかを考えると共に、今後も継続して平和について考える機会を作っていかなければいけないと思う。

図3 事後アンケート結果①

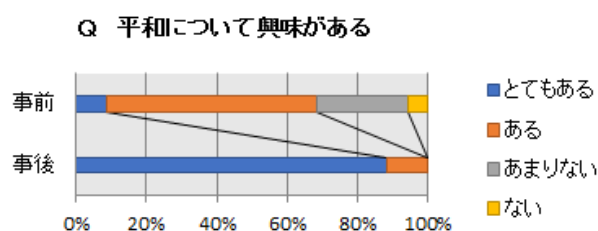


図4 事後アンケート結果②

